

小杉山円満寺 令和六年 師走号

円満寺だより

令和六年も残すところわずかとなりました。

本年は開山四〇〇年記念として、五月に稚児行列、記念法要、祝賀会、山門幕・歓喜天堂拝殿幕の奉納、九月には、成田山、川崎大師、高尾山の三大本山参拝に加え靖国神社と明治神宮も参拝しました。明治神宮では横綱照ノ富士の奉納土俵入りを偶然見ることができ、一同感激したところです。

あつという間の一年、皆さまにとりまして、この一年、どのような年だったでしょうか。

祈りで始まる安らかな一年

〜護摩供による加持祈祷〜

◆元旦祈祷をラジオでPR

今年初めて、年末に元旦祈祷のご案内をラジオを使って放送することにしました。開山四〇〇

年を契機に、少しでも市外の方々へもアピールし、そして少しでも地域とお寺が盛り上がるよう取り組むことにしました。

「元旦祈祷、お参り、初護摩は、歓喜天靈場・新庄聖天円満寺へ」

このフレーズで、十二月二十六日より一月一日まで、YBCラジオで、ワンフレーズ二十秒で、合計二十九回流れます。是非ラジオに耳を傾けて頂ければ幸いです。

真言宗である円満寺では、お正月や縁日、何らかの行事に於いて、願いが成就するように「護摩供祈祷」をお勤めしています。それらを「加持祈祷」と呼びます。

◆三大本山参りで三度の護摩祈祷

九月二十九日の午後、成田山でお護摩祈祷。護摩壇のすぐ脇でお参りをさせていただきました。翌日は川崎大師で、三日目は高尾山でお護摩祈祷を受けてまいりました。手法はそれぞれお寺の様式がありますが、基本的には、本尊さんに供物を捧げる儀式であり、導師は真言を唱えつつ、一連の作

法をとおして、ご本尊様を護摩壇の炎の中へとお招きします。このとき護摩壇の炎は単なる炎ではなく、仏様そのものとなります。

お供物が炎の中に投じられますが、これは仏さまに直接お供物を捧げることを意味します。仏さまはこの供養の心にお応えし、たくさんのご利益をお授けくださることから、護摩供は功德甚大であり、それ故、所願成就の秘法とされるのです。

また、護摩供で焚かれる護摩木は私たちの煩惱を象徴しており、

護摩の一座の中には、仏さまの炎によって私たちの煩惱が焼き尽くされる意味も込められています。

護摩供は、皆様の願いが込められた護摩札を授かるだけ

でなく、目の前で焚かれる護摩供の清浄な炎の功德をいただくことによって、さらにその意義が増します。



加持とは「寄り添って立つ」という意味の古

代インドのアディシュターナという言葉が翻訳されたものです。祈りをおして神仏のような超越的な存在が「(私たちに) 寄り添って立ち」、人智を超えた不思議な力を付与してくれることを表す言葉でした。

弘法大師は著書「即身成仏義」の中で次のように説いています。

『加持とは、如来の大悲と衆生の信心を表す。仏日の影、衆生の心水に現ずるを加とい、行者の心水よく仏日を感じるを持と名づく』と。

仏さまの力が私たちに加わり、また私たちが信心によって受け止めることで加持が成立します。

歓喜天にお参りの際は、二度手をたたき、手を合わせ(身密)、「南無大聖歓喜天・なむだいしょう かんきてん」と唱え(口密)、心穏やかに歓喜天様を想って(意密)、お祈りしてください。

令和七年、新しい年が、無病息災で幸多き年でありますよう、歓喜天堂での正月大護摩供修行に参加されますようご案内いたします。

甲子大黒天祭護摩供厳修

十一月

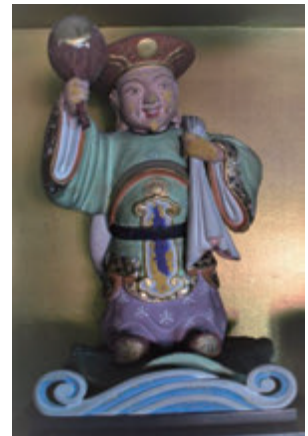
二十三日、

歓喜天堂

にて、正面

に大黒天

をお祀り



して、皆さまの「開運繁昌」「五穀豊穰」「福寿増長」「息災延命」をご祈念いたしました。今年の昼食会(ちゅうじきえ)は、住職の手打ちそばとそば団子、くるみ餅でご接待しました。くるみあんのくるみは、境内で採れたものです。

◆今年の木の実が豊作

春先、熊騷動が全国的に報じられました。しかし、秋口には熊騷動の報道がめっきり減りました。その理由は、山の木の実が豊作だったからだそうです。境内のくるみもしかり、いつもの年の三倍ほど拾いました。また、一昨年初めて境内の南側のイチゴウに実がなるのを発見しましたが、今年は、昨年の倍以上の収穫となりました。大黒天祭で、参列者の方々にお供物としてお渡し

しました。そして、お正月のご祈祷なされた方々にもお供物としてお渡ししたいと思っています。

◆コメの値段

八月に米不足が全国的な話題となりました。倉庫に隠して、出し惜しみしているのではなどのデマも飛び回りました。実際には、昨年の高温障害とコメの消費が少なくなり、生産調整に誤差がでた結果だそうです。新米が出回れば、値段が下がるのではという予想に反し、五割ほどの高値で売られています。家庭の懐を直撃しています。年金族にとっても同様です。しかし、よくよく考えて見ると、ランチのパスタ類は千円前後で、ご飯類は五百円が相場となると、米の生産者にとっては、生産を減らして、高値取引をという心情になるのも致し方ないところかなとも思います。需要と供給、どちらもウインウインの関係でありたいものです。

写経会

円満寺では、毎月十七日に写経会を開いております。午前の部は十時から、午後は一時からです。十七日は、歓喜天のご縁日で、朝七時に

お護摩を焚いて、仏法興隆、山内安全、檀信健勝、市民平和をご祈願します。

午前十時のお護摩には、写経会参加者の方々にも参列していただき、無事息災をご祈願します。参列は無料で、住職の法話の後、写経に取り組めます。

般若心経とはいかに

写経会では、般若心経を模写します。般若心経の解説本は古来たくさん世に出ております。とはいっても難解です。そんな折偶然、般若心経をロック調で語訳した、とても面白い心経と出会いました。皆様に紹介します

般若心経現代現代語訳

般若心経ロック

超すげえ楽になれる方法を知りたいか
誰でも幸せに生きる方法のヒントだ
もっと力を抜いて 楽になるんだ
苦しみも辛さも全ていい加減な幻さ 安心しろよ

この世は空しいもんだ
痛みも悲しみも 最初から空っぽなのさ
この世は変わり行くもんだ
苦を楽に変える事だって出来る
汚れることもありや背負い込む事だってある

だから抱え込んだモンを

捨ててしまうことだって出来るはずだ

この世が どれだけいい加減か分かったか

そんなモンに こだわるな

見えてるものに こだわるな

聞こえるものに しがつくな

味や香りなんて 人それぞれだろう

何のアテにも なりやしない

揺らぐ心に こだわっちゃダメさ

それが『無』ってやつさ 生きてりや色々あるさ

辛いモノを見ないようにするのは難しい

でも そんなもんその場に置いていけよ

先の事は 誰にも見えねえ

無理して 照らそうとしなくていいのさ

見えないことを 愉しめばいいだろう

それが生きてる実感っていうヤツなんだよ

正しく生きるのには確かに難しいかもな

でも 明るく生きるのは

誰にだって出来るんだよ

菩薩として生きるコツがあるんだ

苦しんで生きる必要なんてねえよ

愉しんで生きる菩薩になれよ

全く恐れを知らなくなったら

ロクなことにや ならねえけどな

適度な恐怖だって 生きていくのに役に立つもんさ

勘違いするなよ 非情になれっていつてんじやねえ

夢や空想や慈悲の心を忘れるな

それが出来りゃ 涅槃はどこにだってある

生き方は何も変わらない

ただ受け止め方が変わるのさ

心の余裕を持てば 誰でもブツダになれるんだぜ

この般若を覚えとけ 短い言葉だ

意味なんて知らなくていい

細けえことはいいんだよ

苦しみが小さくなったらそれで上等だろう

嘘もデタラメも全て認めちまえば

苦しみは無くなる そういうもんさ

今までの前置きは全部忘れてもいいぜ

でもこれだけは覚えておけ

気が向いたら呟いてみる

心の中で唱えるだけでいいんだぜ

いいか 耳かっぽじって聞けよ

『唱えよ 心は消え 魂は静まり

全ては此処にあり 全てを越えたものなり』

『悟りはその時叶うだろう

全てはこの真言に成就する』

ギャーティギャーティ ハーラーギャーティ

ハラソーギャーティ ボージーソワカ

心配すんな 大丈夫だ

のぼり旗

奉納のご案内

お願い事を込めたのぼり旗を奉納し、一層のご加護をお祈りしませうか。

のぼり旗の種類と

最たる利益



○大聖歓喜天 — 開運・所願成就

○大聖不動明王 — 息災・厄除け・先祖供養

○十一面観音菩薩 — 子宝・安産・良縁

○南無大師遍照金剛 — 息災・厄除け・安全

○南無虚空蔵菩薩 — 学業・智恵

○子育て地藏尊 — 子育て

○稻荷大明神 — 豊作・商売

ご奉納いただいたのぼり旗に、「願い事」「名前」を書いて、護摩祈祷の後、境内に掲げます。

△期間▽ 奉納日よりおよそ一年間

△奉納料▽ 一本 二五〇〇円

お申し込みは年中受け付けております。

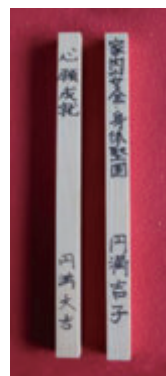
願い護摩木

奉納のご案内

円満寺では毎月一日と十七日

に護摩祈祷を行っています。

ついでに。



護摩祈祷とは、智慧を象徴する炎をあげ、そこに良い香りのする供物を投じることによって、本尊さまを供養し、祈りを捧げる真言宗に伝わる修行法です。その炎にくべる護摩木に願い事と氏名を書いてご奉納くださいますと、護摩祈祷の際に一緒にくべて、お焚き上げします。

奉納料一本一〇〇円

ひぶせごへい

火伏御幣

について

節分と初縁日の



護摩祈祷において、火の用心、火難除けの願いをこめた火伏御幣を加持いたします。

台所や玄関などの高く清浄な場所にお飾りください。ご志納料 一体 三〇〇円

円満寺の恒例年間行事

一月 一日 初詣 元旦祈祷

一月 小寒（五日）から節分まで 寒修行

令和 7 年 厄年表（数え年）

	前厄	本厄	後厄
女性	平成 20 年生 18 歳	平成 19 年生 19 歳	平成 18 年生 20 歳
	平成 6 年生 32 歳	平成 5 年生 33 歳	平成 4 年生 34 歳
	昭和 41 年生 60 歳	昭和 40 年生 61 歳	昭和 39 年生 62 歳
男性	平成 14 年生 24 歳	平成 13 年生 25 歳	平成 12 年生 26 歳
	昭和 60 年生 41 歳	昭和 59 年生 42 歳	昭和 58 年生 43 歳
	昭和 41 年生 60 歳	昭和 40 年生 61 歳	昭和 39 年生 62 歳
幼児	令和 5 年生 3 歳	令和 4 年生 4 歳	令和 3 年生 5 歳

二月 三日 節分星祭り

二月 第三日曜（十六日）歓喜天初縁日祈祷

・御柴灯（午後六時）

四月 八日 花まつり

五月 第三日曜（十八日）青葉祭り・昼食会

七月 第四日曜（二十七日）

歓喜天夏祭り・昼食会・花火大会

十一月 二十三日 大黒天祭・昼食会

十二月十七日 納め聖天

新庄聖天 円満寺

〒996-0001 新庄市五日町五九一四

電話 0233 (22) 0433 Fax (32) 0166

令和六年十二月十五日発行 発行人 山尾瑛紀